

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050728-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050729-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050802-0070	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050803-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0020	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050804-0110	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050812-0060	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050815-0050	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050818-0040	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	ProMed20050819-0030	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Washington post.com July 24, 2005 http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/07/23/AR2005072300936.html	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	China view 25 July 2005 http://news.xinhuanet.com/english/2005-07/25/content_3262105.htm	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	BBC News 2005年7月27日	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	China view 02 August 2005 http://news.xinhuanet.com/english/2005-08/02/content_3297725.htm	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 3 August 2005 http://www.who.int/csr/don/2005_08_03/en/index.html	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	WHO 16 August 2005 http://www.wpro.who.int/media_centre/news/news_20050816.htm	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Public health agency of CANADA july29.2005 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3005_e.htm	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	Alert Net 26 JUL 2005 http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/PEK358534.htm	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 12 August 2005 vol.80, 32 (pp269-270) http://www.who.int/wer/2005/en/	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	HPS Weekly Report 16 August 2005 vol.39	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月5日掲載 http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050803suis.html	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	国立感染症研究所感染症情報センター 2005年8月22日掲載 http://idsc.nih.gov/diseases/streptococcus_suis/050816suis.html	中国四川省で豚連鎖球菌感染症が養豚関係者に感染拡大し、その後広東省や高蘇省蘇州市でも患者が発生した。中国は豚肉製品の輸出を停止した。
											レンサ球菌感染	ProMed20050826-0020(ALL Headline News8月23日 Agia News8月24日)	香港政府は今回のブタレンサ球菌による被害が最も深刻な中国四川省からの豚肉輸入再開を宣言した。7月末に禁止してからの再開。衛生当局は四川省での致死的な感染流行は制圧されたと発言している。また、香港での感染した患者から分離した菌の遺伝子解析の結果それぞれ異なる株であると発表している。
2005/10/11	50555	沢井製薬株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
2005/10/12	50556	小林化工株式会社	コンドロイチン硫酸ナトリウム・サリチル酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	アメリカ	有効成分	無	無	無			
2005/10/14	50557	アベンティス・パスツール第一ワクチン株式会社	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50558	社団法人 北里研究所	日本脳炎ワクチン ジフテリアトキソイド	ゼラチン	ウシの骨皮	不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											BSE	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50559	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ウンシ臓抽出物	ウンシ臓	米国、カナダ、オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	有	無	無	感染 人畜共通感染症	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/14	50560	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	①~③ニュージーランド、オーストラリア④~⑥不明	製造工程	有	無	無	感染 人畜共通感染症 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日 EFSAホームページ 2005年5月25日	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。 2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
2005/10/14	50561	社団法人 北里研究所	コレラワクチン	ビーブエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	有	無	無	感染 人畜共通感染症 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 感染	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日 EFSAホームページ 2005年5月25日 Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。 2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。 2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50562	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	スキムミルク	ウシ乳	全て米国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/14	50563	社団法人 北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ベプトン	ウシ乳	①中国、ホーランド②～⑤中国、ホーランド、ニュージーランド⑥～⑩不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/14	50564	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
											変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50565	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国	製造工程	有	無	無	感染 人畜共通感染症	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/14	50566	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	①③ニュージーランド②ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	感染 人畜共通感染症 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日 EFSAホームページ 2005年5月25日	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。 2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
2005/10/14	50567	社団法人 北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖	ウシ乳	ドイツ、ベルギー、ルクセンブルク、ニュージーランド、米国	添加物	有	無	無	感染 人畜共通感染症 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Veterinary journal 2005;169:124-5 USDAホームページ 2005年8月7日 EFSAホームページ 2005年5月25日	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。 2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。 2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
											感染	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ボツリヌス症と診断されたウシの乳からボツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50568	社団法人 北里研究所	乾燥痘そうワクチン	ウシ表皮	ウシ	不明	製造工程	有	無	無	人畜共通感染症	USDAホームページ 2005年8月7日	2005年4月27日よりコロラドをはじめとする各州で飼育されていたウマが水疱性口内炎ウイルス(VSV)に感染していることが判明した。2005年度では初めての水疱性口内炎の確定症例である。
2005/10/14	50569	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	有	無	無	感染	EFSAホームページ 2005年5月25日	2005年5月、欧州食品安全庁(EFSA)が特定危険部位(SRM)として除去すべき一定のウシ組織の年齢を21ヶ月以上にすると発表。
2005/10/14	50570	テルモ株式会社	-	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	Veterinary journal 2005;169:124-5	2002年1月、内臓性ポツリヌス症と診断されたウシの乳からポツリヌス神経毒素(BoNT)B型を検出。遊離型BoNTが生牛乳から検出された初の報告。
2005/10/14	50571	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	CDC/MMWR 2005;54(11):269-72	2005年1月26日CDCはミズリー州の癒治療クリニックの患者におけるPseudomonas Fluorescens血症4例の報告を受けた。2月15日現在4州でヘパリン生食洗浄による36例のシュドモナス感染を確認している。
2005/10/14	50572	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無		J of Virology 2003;84:2351-7	北海道で2001年-03年に散発的に発生した、急性ないし劇症E型肝炎の感染症例10例のうち9例について調理された豚レバーを食べていた。検出されたウイルスのあるものは、感染患者から分離されたウイルスの塩基配列との相同性が認められた。
2005/10/14	50573	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	米国、ニュージーランド、オーストラリア(2005.9.22. 軽微変更届で米国産を削除した。米国産	製造工程	有	無	無	BSE	Reuters News 2005年3月29日	インドネシア農業省は3月、トリインフルエンザによりウズラ6万羽が死亡または処分されたと発表。また、1月~3月にかけて同国3州において家禽2181730羽が死亡したと述べた。
												OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエストプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50574	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血液	米国	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50575	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン風しん混合ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50576	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50577	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50578	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリブシン	ブタの豚臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
2005/10/14	50579	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/14	50580	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	日本	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	Nature 2005;435:390-1	政府の検査によって感染の存在が確認されたので高病原性のトリインフルエンザウイルスがインドネシアの豚に感染しているという懸念が増大している。ある地域ではH5N1型ウイルスが無症候状態でブタ集団の半分以上に感染している。ブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株の変異を促す攪拌槽の役割をもつのではないかと危惧する研究者もいる。
2005/10/14	50581	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50582	財団法人 阪大微生物病研究会	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50583	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストリア	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始! 2005年6月より、ブタレンサ球菌による感染が中国で拡大。中国当局は206例中38例が死亡と報道。ほとんどの患者は感染前に病気のブタやヒツジを屠殺している。現在のところヒト-ヒト感染の証拠は見つかっていない。
2005/10/14	50584	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし(製造中止品目)	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	WHOホームページ 2005年8月3日	
2005/10/14	50585	財団法人 阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	米国、ニュージーランド(現在、種菌培養工程で米国産は使用していない。)	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50586	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始!
2005/10/14	50587	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/14	50588	財団法人 阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	有	無	無	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月1日	米国で2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な固体として問題の死骸は焼却処分された。アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に達していない。感染したウシは米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始し世界29カ国における多剤耐性Salmonella Typhimurium感染の発生率、また多剤耐性を決定するファジータイプ104(DT104)の増加について調査したところ過去20年間で実質的に多くの国で増加傾向にあった。1991年～2001年の期間で抗生物質耐性またはファジータイプの調査を行った結果、キノロン耐性S. Typhimuriumの発生が増加している。2004年に英イングランドおよびウェールズにおいてHTLV感染症新規診断が83例あった。そのうち78例(94%)がHTLV-I陽性2例が-II陽性、1例が-Iおよび-IIに重複感染していた。感染経路のうち4例が輸血を介しての報告であった。
2005/10/17	50589	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	ウロキナーゼ	人尿	中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	Emerging Infectious Diseases 2005;11(6):859-67	2005年3月末までに英国において合計107例の成人がHIV-2と診断された。うち6例は海外での輸血を介して感染した可能性がある。
2005/10/17	50590	わかもと製薬株式会社	ウロキナーゼ	人血清アルブミン	人血液	日本	添加物	有	有	無	HTLV	CDR Weekly 2005;15(8)	2005年の1月～3月に新規HIV感染診断2230件が報告された。1982年にサーベイランスが開始されて以来英国で報告されているHIV診断総数は70783件になった。現在までに21280例がAIDSと診断され、そのうち13145例が死亡。2004年に報告されたHIV診断6403件のうち輸血および血液因子製剤を介しての可能性のある診断数は男性7例女性8例。
											HIV	CDR Weekly 2005;15(21)	中国のあるコミュニティで1990年代半ばに行われた血液収集活動によってHIV感染が現在母子感染を起こしている。2000年～01年の調査では、子供224人中5%が陽性で、抗体陽転率は2.5%/年であった。
											HIV	Clin Med J 2005;118(9):720-4	

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(24)	<p>2005年7月のIrishNewsによるとアイルランドのダブリン病院においてvCJD治療を受けている患者が輸血を行っており2名が献血を受けていることについて、1名はvCJDと関係ない症状で死亡しており、1名は無症状であると報道。アイルランド保健省は報道後の再保障を試みている。</p> <p>英国保健省はvCJDのリスクが増加していることが確認された新たな集団について2005年7月20日に公式発表。この集団は後にvCJDを発症した患者に対して以前に輸血された血液のドナーである。現時点で3件のvCJD症例に対して約100ドナーが関係している。さらに2名の受血者について観察がされている。1名はvCJDと関係のない症状で死亡しており、もう1名は無症状であるが輸血による感染を否定できない。</p> <p>2004年1月1日～12月31日までに英国中から疑いのある輸血を介して伝播した感染症(TTIs)が34例報告された。うち1例(E型肝炎)のみが輸血を介して感染したことが確定された。</p>
											変異型クローンフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2005;15(29)	
											E型肝炎	CDR Weekly 2005;15(30)	
2005/10/18	50591	アベンティスパスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、スペイン、フランス、イタリア、リトアニア、ポーランド、ルウェーデン	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50592	アベンティスパスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	ウマの血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
2005/10/18	50593	アベンティスパスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	赤血球ストローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50594	アベンティスパスツール第一ワクチン株式会社	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50595	日本臓器製薬株式会社	-	抗ヒトリンパ球ウサギ免疫グロブリン	培養ヒトリンパ球ウサギ血清	ドイツ、ハンガリー	有効成分	無	無	無			
2005/10/18	50596	日本臓器製薬株式会社	-	培養ヒトリンパ球(JM細胞株)	ヒト(急性リンパ性白血病患者)末	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50597	日本臓器製薬株式会社	-	ヒト胎盤ホモジネート	ヒト胎盤	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50598	日本臓器製薬株式会社	-	ヒト赤血球	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
2005/10/18	50599	日本臓器製薬株式会社	-	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/18	50600	日本臓器製薬株式会社	-	ウシ乳児血清	ウシ血液	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
2005/10/19	50601	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人活性化プロテインC	マウス由来モノクローナル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/10/19	50602	財団法人化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加入免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ロタウイルス陽性 マールブルグ病 ウイルス感染 リンパ性脈絡髄膜炎 リケッチア症 HIV感染、C型肝炎	第52回日本ウイルス学会学術集会(2004/11/21-23) CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 Transfusion.2005;45(4): 500-3 CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2 第57回日本衛生動物学会大会(2005年6/1-3) CBER Guidance for Industry July 2005	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。 米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告である。 2005年5月、CDCによると、米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)感染の痕跡のある臓器移植患者4名中3名が死亡と報告。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。LCMVのヒト-ヒト感染は、母子の垂直感染以外には知られていなかったが、免疫抑制状態にある臓器レシピエントにLCMV感染臓器外食された場合には重篤な症例になることが示唆された。 2004年7月に福井県で感染した紅斑熱患者が、環境要因の異なる南西日本で多発する日本紅斑熱と同一か否か精査したところ、欧州と共通のRickettsiahelvetia(Rh)感染の紅斑熱であることが判明した。Rh感染例としては我が国については極東アジアでの初確認例である。 2005年7月米国食品薬品局(FDA)、生物製剤評価研究センター(CBER)はHIV-1、HCVのNAT反応陽性における、製品廃棄、献血者排除基準、献血者の追跡調査、NATと血清学的検査結果を考慮した献血者への通知とエントリー基準、選及調査に関するガイダンス案を公表した。 HIV-1は8週後、HCVは6ヶ月後に再検査し、NAT陽性の場合は永久廃棄、NAT陰性でEIA陰性の場合にはリエントリー。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/20	50803	日本ビーシージー製造株式会社	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	TRENDS in Cell Biology 2005 Feb;15(2)	PrPcがPrPscに変化する可能性のある細胞部位についての研究。小胞体はプリオン病の遺伝子における変異型PrPへの転換において主要な役割があるが、原型質膜へのPrPcの輸送とそれに続く吸収がプリオン病の感染型におけるPrPcの転換に要求されていると考えられる。さらに、PrPcとPrPscが関与している膜領域もまた、変換のプロセスに重要であると考えられる。完全なウシプリオン蛋白(BoPrP)を表現するトランスジェニックマウス(Tg)は伝播のバリアーなしにBSEプリオンを連続的に遺伝させる。Tgマウスはヒツジスクレーピープリオンにも伝播のバリアーを示さない。このことは、ウシがある種のヒツジスクレーピーのプリオンタンパクに高い感受性があることを示唆している。種間のプリオン伝播に観察される種間バリアーの大部分は、株間バリアーであると考えられる。Prpの配列の相違が、異なる種のプリオンの伝播を必ず防御するわけではない。
2005/10/20	50804	持田製薬株式会社		トリプシン	ウシ膵臓	ニュージーランド	有効成分製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日刊薬業第11740号 2005年1月3日28日付	2005年3月、薬食審査会はワイスの間節リウマチ治療薬「エンブレル」投与中にCJDを発症した海外症例2例について審議し、vCJDである可能性は低いと考えられるため、販売を見合わせる根拠とはならないと判断した。
											BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。
2005/10/20	50805	持田製薬株式会社	日本薬局方トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	日刊薬業第11740号 2005年1月3日28日付	2005年3月、薬食審査会はワイスの間節リウマチ治療薬「エンブレル」投与中にCJDを発症した海外症例2例について審議し、vCJDである可能性は低いと考えられるため、販売を見合わせる根拠とはならないと判断した。
											BSE	USDA Statement 2005年6月29日	米国農務省によると、2005年6月第4週にBSE検査陽性と同定されたウシについてDNA検査を行い、このウシはテキサス州内で飼育され、年齢が12歳前後であったことが確認された。